

解説：

意識レベルのスケールとしてグラスゴーコーマスケール(GCS)とジャパンコーマスケール(JCS)はいつでも使えるようにしておく。

動眼神経には外眼筋を支配する動眼神経核からの繊維とエディンガー・ウエストフェール核から瞳孔括約筋と毛様体筋を支配する副交感神経繊維、その他に眼筋の固有知覚受容器の求心性繊維が含まれる。動眼神経は中脳の大脳脚間から出て、後大脳動脈と上小脳動脈の間を通り、後交通動脈と内頸動脈に並走して海綿静脈洞に入る。内頸動脈の後交通動脈分岐部に動脈瘤があると動眼神経が圧迫されて、しばしば同側の動眼神経麻痺を起こす。この際、完全な動眼神経麻痺だと上眼瞼挙筋が麻痺して麻痺側は閉眼しているが、眼球は外転神経が優位となるので外転位となっている。不完全な動眼神経麻痺の場合は動眼神経の表面を走行すると言われる副交感神経束だけが麻痺して散瞳し、直接と間接の対光反射がなくなるが、上眼瞼挙筋や外眼筋の麻痺は認めない。動眼神経と周囲組織との位置関係は下の図がわかりやすい。

正解 a, a

